

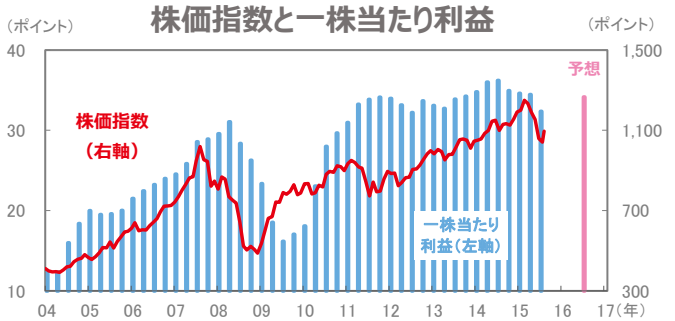
今日のトピック アジア・オセアニア株式市場の現状と見通し

米中の不透明要因払しょくにつれ、利益成長を織り込みへ

ポイント1 足元で反発

米国の利上げ見送りがきっかけ

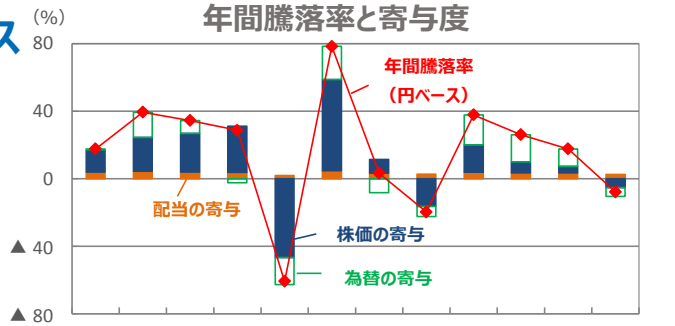
- アジア・オセアニア株式は、中国の景気減速や米国の利上げを巡る不透明感などから、今年4月ごろをピークに下落傾向にありました。足元では9月の米国の利上げ見送りをきっかけに反発し、底堅さが戻りつつあります。
- アジア・オセアニア企業の収益は、中国の景気減速などを背景に、下方修正が続きました。今後1年の利益成長は、緩やかな世界景気の拡大などから6%程度の増益が見込まれています。



(注) 株価指数は2004年3月～2015年10月(直近は10月14日)。一株当たり利益(直近1年)は2004年1-3月期～2015年7-9月期。予想は、2015年9月末時点の今後1年。いずれもMSCI AC アジア・パシフィック(日本を除く、配当込み、現地通貨ベース)による。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 年初来では、為替もマイナス 厚めの配当利回りが下支え

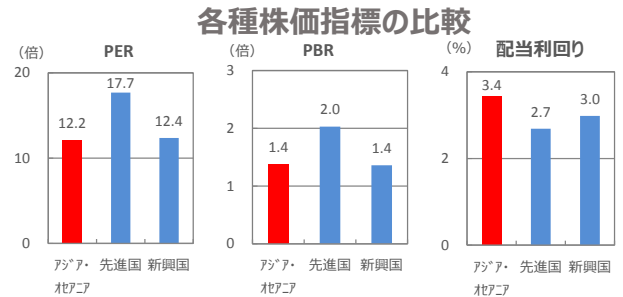
- 今年のアジア・オセアニア株式の騰落率を円ベースで見ると、株価、為替ともにマイナスの寄与となっています。昨年まで3年連続の上昇が調整局面入りです。一方、調整局面においても厚めの配当利回りは市場を下支えしています。
- 株価の下落により、バリュエーション(株価評価)指標は、他の市場と比べても割安さを示すものが多く、今後の底堅い利益成長を前提にすれば、これ以上の下値は限定的と考えられます。



(注) データは2004年～2015年(直近は10月14日まで)。寄与度はMSCI AC アジア・パシフィック(日本を除く)の各指数から計算。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 中国、米国の不透明要因が 薄らぎ徐々に底堅い展開へ

- 足元では、米国の利上げを巡る不透明感が一旦は後退しています。利上げはあったとしても非常に緩やかなペースとなる見込みです。中国の景気は政策余地から大きな腰折れは回避されそうです。これらの不透明要因が薄らぐにつれ、アジア・オセアニア株式は利益成長を織り込む展開となる見込みです。



(注) データは2015年9月末。MSCIの各株価指数による。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2015年10月 9日 主要国のリート市場の最近の動向(9月) 2015年10月 2日 資源価格と資源企業(グローバル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。